

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

てんかん診療拠点病院受診患者調査（静岡てんかん・神経医療センター）

研究分担者：西田拓司 国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

**研究要旨** てんかん診療拠点病院受診患者調査（静岡てんかん・神経医療センター）

本研究では、てんかん診療拠点病院のてんかん患者の受診傾向を調査することで、拠点病院の課題を抽出する。今年度は、COVID-19 感染症流行下での、てんかん患者の受診状況、長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数、外来脳波件数、外科手術件数、電話相談件数を調査した。2020 年は2019 年度と比べて、新入院 12.2%減、初診外来 17.2%減、再診外来 3.0%減、電話相談＋電話再診 145.5%増、長時間ビデオ脳波モニタリング検査 1.0%減、外来脳波検査 16.9%減、外科手術件数 8.5%増だった。2020 年のてんかん診療は COVID-19 感染症流行の大きな影響を受けた。新入院、初診外来、外来脳波検査が減少し、電話相談と電話再診が大幅に増加した。

**A. 研究目的**

本研究は、てんかん診療拠点病院の一つである国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター（以下、当院）の COVID-19 流行下でのてんかん患者の受診傾向を調査することを目的としている。

**B. 研究方法**

当院てんかん科の診療録、相談記録などから以下を明らかにする。調査項目は、てんかんで受診した入院および外来患者数、長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数、外来脳波件数、外科手術件数、てんかんの電話相談件数、電話再診件数である。長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数は診療報酬を算定したもので、連日行った場合も1件とした。

**（倫理面への配慮）**

本研究は当院の倫理審査委員会による承認を得た。

**C. 研究結果**

当院てんかん科の受診患者数は、2019 年新入院 3,244 名、初診外来 1,351 名、再診外来 24,607 名、

2020 年新入院 2,847 名、初診外来 1,119 名、再診外来 23,865 名だった。電話相談は 2019 年 2,094 件、2020 年 2,434 件だった。電話再診は 2019 年 0 件、2020 年 2,706 件だった。長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施人数は、2019 年 2,068 人、2020 年 2,049 人だった。外来脳波検査実施人数は、2019 年 5,237 人、2020 年 4,352 人だった。外科手術件数は、2019 年 82 件、2020 年 89 件だった。

**D. 考察**

2020 年は2019 年度と比べて、新入院 12.2%減、初診外来 17.2%減、再診外来 3.0%減、電話相談＋電話再診 145.5%増、長時間ビデオ脳波モニタリング検査 1.0%減、外来脳波検査 16.9%減、外科手術件数 8.5%増だった。2020 年のてんかん診療は COVID-19 感染症流行の大きな影響を受けた。新入院、初診外来、外来脳波検査が減少し、電話相談と電話再診が大幅に増加した。

**E. 結論**

地域、広域のてんかん診療を担う拠点病院である当院の診療は COVID-19 感染症流行の大きな影響を受けた。非常時のてんかん診療の体制を確立する必要がある。

の影響、第8回全国てんかんセンター協議会総会（東京大会2021）、2021年2月13日。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

特になし

### 2. 学会発表

1. 橋本睦美、谷津直美、西田拓司、臼井直敬、小尾智一、高橋幸利、静岡てんかん・神経医療センターてんかん科の診療に対する COVID-19

## H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

### 1. 特許取得

特になし

### 2. 実用新案登録

特になし

### 3. その他

特になし